

身體の丈夫な人

慈愛に富んだ、しつかりしてやさしい人

相當の教養のある人

童心ゆたかで世帯じみない人

あげればきりが無いが、こんな条件をすべて具へた人はこの地上にはある筈もないが、保姆としてたつた一つの大切な条件がある。季節共同保育所が農民の生活を維持し高めるために缺くべからざる社會施設であること、即ち保育所の社會的意義を身を以つて體得することである。季節保育所を正しく理解してゐれば忙しい村の人達のお手傳して幼児をまもり世話せずにはゐられない心持も亦生れてくるのである。農繁季節の育ての手不足から幼児の上にふりかゝる不幸を少しでも少くせずにはゐられない氣持、部落の人々のはげしい忙しさの中に我が子の安全を心配する焦だたい心持を自分のものとして、幼児たちの世話にかりたてられずにはゐられない仕事の正しい理解から出發した烈しい熱情こそ季節保育所に働く人々の唯一の資格である。こうした氣持のない人はどんなに學歴があつても、オルガンが巧くて、唱歌が上手でも共同保育所のやうな多くの人の子を世話する大切な仕事につくことは出来ないものである。この理解と心情さへあれば、子供をあきさせないで、夕方まで楽しく遊ばせるためにいろいろ工夫もするであらうし、毎日の保育所生活で少しでもよい習慣をつけてやらうとし、どの子にも細かい心遣ひが出來て、夕方は働き疲れた母たちを慰めはげましてそのふところに子供を無事にかへすことが出来るのである。季節保育所は設備が不完全なものだけに保姆の努力は大變なもので、その部落で有用なものとみとめられるまでには保姆のすぐれた創意と知識が必要になるが、之とても村人との眞摯な共同感情があるものは自らこうした教養を持つために工夫と努力を惜まないであらう。

女學校を出た町の婦人が季節保育所に雇はれた。彼女は子供たちが遊びあきて困つてゐるのに白足袋の埃を拂つてはしきりにその汚れを氣にしてゐた。そして室の中に入つて顔のきれいな小ざつぱりした服装の子の手をとつて講習で覺えた表情遊戯を踊りたのしんでゐた。彼女は先生になつた悦びでいっぱいのもやうであつた。彼女は季節保育所の役割はおろか保育の目標すら頭にないかの如くである。こうした心ない保姆があちこちに尠くないのを残念におもふのである。こんなことを考へると保育所を經營し利用する部落の人々の強い支持が何より必要になるのである。若い保姆が熱情こめて疲れも忘れて仕事と取組むように部落の人々の勵ましと慰めがほしいものである。

開所迄の準備

部落懇談會の開催

正月から二月にかけての農閑期の都合のよい日を見て部落月例會(部落常會)を開催して今年の農繁期には是非季節保育所を部落に作りたいたいものと相談する。季節保育所を開設した經驗のある近村部落の人々に來てもらつて體験談を聞いて開設の決意を促すことは有効な手段である。この場合に場所、設備、經費、保姆等について部落の人々がみんないろいろ考へ合ふ事である。部落の人々が季節共同保育所について理解され、作つて見ようと云ふ事になつたら三月のお節句のおやすみでも利用して部落の婦人、子供を集めて慰安會を開催して映畫、紙芝居、お話等によつて保育所の宣傳理解に努める。又、小學校の先生等を頼んで保育所へ子供を出す爲の準備に、古い浴衣などを利用して簡単な洋服や、エプロンパンツなどを縫ふ會も開きたいものだ。殊にパンツは少しの布で簡単に出来るのだから、皆でお揃ひの型の縫つて保育所に來る子には必ず穿かせて來るやうにするがよい。一方、部落の人々は設置場所にブランコを作つたり、木陰に腰掛を縫へたり、食事用の飯臺を工夫したり保育所の設備についてみんな心配する。組合戸數は三、四十戸が適當であるが若

し戸数が少ない場合には近接の組合と協同し、多い場合には二つ又は三つに分れて開設するやうに相談する。部落にあるお寺のお坊さん等がこのやうな仕事に熱心な人で進んでやつて下さる場合には組合はお坊さんに實際の經營を任せて後援し、協力することにもなるであらう。

保母は先づ第一に部落に適當な人があるかどうか充分に吟味して、どうしてもない場合は小學校の校長や、役場に相談して村内で適任者を物色する。村内によく適任者がいない場合は府縣社會課へたのんで輸入する事になるのだが、この場合にも開所實際に依頼するのではなく、少くとも開く前に部落を一軒毎に訪問して幼児の家を覚え親しんで置く位の餘裕がほしいものである。愈々保母になる人が決つたら府縣の講習に行つてもらつたり、小學校の女の先生に協力してもらつていろく遊ばせ方位を豫め心得るだけの熱心さを求めたい。

又村の他の部落でも開く場合等には前にあげた如く村内各關係團體の協議會を開いて充分に後援協力するやうに取計らうのである。

場 所

今まで多く使はれてゐる場所は

小學校、分教場

寺院、神社、教會

青年團の集會場(青年會館、青年クラブ)

共同作業場

篤志家の納屋

等であるがどこがよいと云つたところで、その村や、部落の事情によつて決まるわけだから次の様な主要な條件を頭にお

いて適當な所を選定する。

- 1、幼児が充分にかけ廻る事が出来る廣場があつて、
- 2、雨の日室内遊びが出来る建物があつて、
- 3、部落の中央で幼児が集合に便利で、
- 4、危険のないところ、

設 備

季節保育所が臨時的なものだとしても乳幼児を完全に保育するためには種々な設備を必要とするのであるから事情の許す限り備へる事が必要である。こゝでは部落團體が部落の建物を利用して約三十人の幼児を保育する場合の最低の設備を述べて見よう。但しこれだけが揃はなければ開設できないといふ意味ではなく、部落で充分に相談して都合のできるものを設ければよいのである。(經營事例の項参照)

(一) 室

1、静かな室

之は乳香子の室に二、三歳児の午睡室をかねたもので敷敷がよい。青年クラブや共同作業場の如く一室の場合は幕か衝立て區切ると便利である。

一室の片隅を區切らずそのまま使ふと幼児がとびはねてねせた赤ん坊の足を踏んだりして困る。

2、幼児の室

幼児の食堂であり、休息場であり、雨の日の遊び場である。

3、便 所

便所を使ふことは清潔の習慣の第一歩で、あるものを利用する場合には幼児が使ひ易いやうに、こわがらぬやうに「隠し」の所に横木を渡してつかまる場所を作り、跨ぎを狭くして足の位置を板に墨書するとよい。

野外遊びが多いので運動場の片隅にも一個所用意すること。

4、湯呑、洗面所

掘抜井戸などのある所はよいが、洗面器と盥を用意して手洗、洗面に使つたり、四斗樽に蛇口を工夫したりしてあるものを利用して備へつける。

5、給食場

共同炊事を實施してゐる場合は簡單だが、さうでない場合には晝食や間食を作る場所を是非共工夫しなければならない。

6、履物の脱場所

分致場でも使へば問題はないが、上り段を工夫してその下に並べたり天氣のよい日は上り口に筵を敷いてその周りに並べるのが混雑しなくてよい。

以上あれば保育所としては幼児の日常生活には差支へない。

(二) 遊具

- 1、ブランコ
- 2、砂場
- 3、江り臺
- 4、積木
- 5、人形、空箱
- 6、ボール、紙風船

7、其他玩具

(三) 教具

- | | |
|------|-------------|
| オルガン | ラヂオ |
| 蓄音器 | レコード |
| 繪本 | 畫洋紙 |
| 色紙 | 糊 |
| 鉛筆 | クレオン |
| 鉄札 | 呼笛(又は太鼓、鈴等) |
| 名札 | 徽章 |

(四) 給食用具

1、炊事用具

- | | |
|----|----|
| 鍋 | 釜 |
| 庖丁 | 杓子 |
| 洗桶 | |

2、食事用具

- | | | |
|----|------|---|
| 茶碗 | 皿 | 箸 |
| 湯呑 | スプーン | |

(五) 其他

1、手洗用具

- | | | | |
|-----|-----|---|---|
| 洗面器 | 石けん | 鏡 | 櫛 |
|-----|-----|---|---|

2、午睡用具	小布圍	ねんねこ	毛	布
3、ちりがみ				
4、洗濯用具	たらしひ	洗濯石けん	干紐又は干竿	
5、掃除用具	箒	はたき	バケツ	雑巾 屑籠
6、事務用具	受託児名簿	出席簿	保育所日誌	出納簿 文書綴

保育所の設備に就て以上あげたのは標準的なものの一例であつて、その部落の事情によつて種々異なるものである事は充分に念頭に置くべき問題である。漁村と山村では幼児の生活も遊びも異り、農村といつても水田の多い所と畑の多い所では遊びにとり入れる自然物もちがふので村の自然的・生産的事情によつて多様なタイプが生れて一向に差支ないのである。

すべり臺にしても現在のやうに材木が高くて釘が自由に手に入らない時には強いて作る必要はないのである。立木を利用してブランコを設けたり、木片や小石を集めて（之が又一つの遊びとしてなされるのが好ましい）積木遊びを工夫することなどで子供達は十分にたのしく遊べるのである。教具などは小學校から借用したり、炊事道具などは各家庭で分擔して持寄つて間に合ふのであるが、一年毎に部落共有の保育所用具をととのへてゆく事は保育所の開設を容易にする途であり、部落の人々の保育所への關心を高める所以でもある。要は開設の場合施設標準に示された設備を鵜呑にして初年度から全部ととのへるような事はやめて部落の人々の理解と協力の高まりに應じて漸次ととのへてゆきたいものである。

經費

季節共同保育所は原則として部落團體が經營の主體となるために經費に就ては部落團體の負擔として不足分は左記の如き助成金、補助金及寄附金（現物寄附も含めて）による（經營事例の項参照）

一、府縣助成金	
一、府縣社會事業協會助成金	
一、軍事接護會府縣支部助成金	
一、愛國婦人會府縣支部助成金	
一、村補助金	
一、銃後奉公會、愛國婦人會、農會、産業組合、方面事業後援會、主婦會等の負擔金	
一、篤志家の金品寄附	
又支出の主なるものは保母手當、給食費、間食費、設備費、材料費及雜費等である。	
部落農家は組合費のかたちで經費を負擔するので保育料は原則として徴收せず、但し給食のために米一人一——二合つ	
つ持參せしむることも考へられてよい。	
季節保育所の經費はどの位かかるであらうか、青森縣における昭和十四年度春季保育所調によれば施設數二五〇にして	
一施設平均兒童數六四名、開設日數二二、三日にして一ヶ所平均支出は次の通りである。	
報 酬	二二・一七
間 食 代	二五・八〇
玩 具 代	八・二九
設 備 代	一〇・八二
寫 眞 代	二・〇二
雜	四・四九
合 計	七四・五九

又千葉縣では一ヶ所平均三十六圓五十三錢になつてゐる。即ち幼児五十名十日間で五十圓あれば經營できるのである。今幼児一人一日の經費を見れば青森縣では〇・八錢で、京都府では〇・七錢になり、山口縣では一〇錢を基準として豫算を立案させてゐる。

これに對して縣及各團體の助成金はどの位であらうか、前記青森縣のそれは明かではないが次の如く各府縣の助成基準からみて經費の三分の二までは助成金や寄附金で支辨されるものとみてよいであらう。

季節保育所助成基準の一例

群馬縣

新設の場合

三〇圓

既設の場合

二〇圓

給食實施の場合並年二回以上開設又は成績良好の場合にも實施成績に應じて助成がある。

長野縣 所要經費の三分の一乃至二分の一

岐阜縣 所要經費の三分の一

山口縣 設備費として二分の一乃至五分の三

愛媛縣 設備費として二分一以内

經營費として二分の一以内 (三〇圓以下)

經營費として二分の一以内 (二五圓以下)

以上の如く季節保育所は府縣、町村及各團體の助成金が割合に潤澤で經費の約三分の一以上を得られる故部落組合の負擔は僅少と云はねばならない。

助成金については町村役場又は府縣社會課に問合せて充分に調査して部落の人々に理解せしめ設置に對して協力し易からしめる必要がある。

最後に季節保育所が府縣の補助金や助成金が尠くなつた場合開設不能に陥らず毎年開設できるように村の豫算に季節保育所費を必ず計上すること、そのために府縣地方課の指導を特に希望したい。

開設期間と受託時間

農漁村の繁忙期といへばその地方の農業の種類、型態によつて規定されるものであるが、その主なものは田植、秋收、蠶の上簇、茶摘、果樹の採收、煙草取入、海藻收穫期、漁繁期、鹽田の寄子等であるが地域の各農漁家の人々が戸外に勞働する集中的繁忙の時期に開設するのである。従來開設のものは麥の收穫、蠶の上簇、田植が引續き、或は重なり合つて繁忙の絶頂に達した六月に開設せられるものが多かつた。又秋の收穫の時、開設されるものは春の田植時のものに比して期間は長い、その數は僅か春季の二六・二%に過ぎない(昭和十三年度厚生省調)。これは田植時は田甫や用水堀、溝等に水が多くて幼児の溺死し易い危険が多いこと、繁忙期が集中的であるに比して秋の收穫はその時期も不揃である上に田甫に水がなく幼児は野外で遊んでも比較的危険が尠いことによるものであらう。

こうした意味でその地域の特殊條件を充分に考慮して期間を定むべきであらう。又幼児を最初から終日保育所に生活せしめることは無理があるので農繁期間十日とすればそれより二三日早く開所することも考慮する必要があるであらう。天候の關係により農繁時期がおくれた場合など、田植の眞盛の折に季節保育所は豫定の期間がすぎたからと閉所する實狀など見聞きするのであるが、農家組合が主體となればさうした點も農家の勞働事情に即してその期間を自由に伸縮し得るであらう。

季節保育所の開所時間はその部落の共同作業の開始、終業の時刻に合致せしめることを原則とする。佐賀縣南波多村笠

椎實行組合では共同田植作業の開始朝五時、終業時刻夕七時半に鐘を鳴して部落全體に知らせるとの事であるが、この様な合圖と共に保育所も亦開所、閉所すべきものと思ふ。

大雨や暴風雨の場合等農繁期といへども農家が仕事を休む場合には勿論保育所も休みにして差支へない。

受託児童

季節共同保育所で保育する児童は大體次の如く大別する事が出来る。

子守のゐない家の乳兒

子守附の乳兒

學齡前幼兒

低學年兒童

こんなわけで保育所は一見雜然としてゐて常設保育所のやうにまとまつた保育はできるものではない。乳兒だけを單獨に保育することは少なく多くは子守附の乳兒である。從來乳兒の保育は困難だから三歳以上の幼兒を保育せよと獎勵された府縣もあるが、子守と共にあづかるやうにすれば簡易である。即ち日中子守が遊びにまぎれて幼兒を背中にくくりつけて野外をかけまわるので保育所の一隅に子供を背からはなしてねむらせてやることである。

保育所では年齢の範圍が大きいほど世話が困難ではあるが學童も亦保育所から追はず、幼兒の遊ばせ手となり、世話に協力させることが大切である。

次に一施設の児童數ほどの位がよいかと云へば保母が幼兒の世話に慣れてゐないことを條件にして、又農村の乳兒はとかく背負ひぐせがついてゐるので一施設の保母二—三人とすれば乳兒五—六人、幼兒學童で三〇—四〇人が適當である。今農家小組合の平均組合員數は三二・一人であるから三〇—五〇人の組合員のある農家小組合で一施設を作つた

なら三〇—四〇人の幼兒を集めることが出来るのである。もし組合員が平均以下の場合は一—三部落が協同で一施設を作る。或る村では小學校に二百餘の幼兒を集めて小學校の先生が保育してゐたがこんなに多くてはよい雰圍氣の保育所を作るわけにはいかないのである。

兒童について豫めしらべておくことは次のやうな事である。

- 1、子供の氏名と家での呼び名、年齢
- 2、両親の氏名、年齢
- 3、お友だち
- 4、晝寝の習慣の有無
- 5、大小便を教へるか、一人で始末できるか
- 6、からだの上で特に氣をつけることはないか
- 7、特別變つた性質はないか
- 8、家の者が晝間働いてゐる場所
- 9、其他保育上参考になること

以上のやうなことを騰寫にでもして、家庭訪問の折に母親からきいてよくしらべておく。

開所手續

以上の如く部落團體協議の結果場所、設備、經費、期間等が決定したなら愈々開所になるがそれまでに次の様な手續が要るのである。

- 1、部落農家に開所を知らせること

廻状、ちらし、ポスター、部落月例會等の方法により

2、町村、村内各團體に通知して何分の協力、後援を要請すること

3、町村役場を経由して開所一週間前までに府縣社會課へ開設届を出すこと

その内容は各府縣所定の型式があるので役場で聞いたらいが千葉縣の一例を示せばその報告内容は

保育所名

經營主體

代表者職氏名

協力團體名

新舊別(創設年度)

開設場所

開設期間

受託時間

受託児童數(内出征軍人子弟數)

區域

營養給食の有無

従事員

豫算

支	出(設備、間食、給食、人件、雜)
收	入(補助金、寄附金、負擔金)

村内各機關との連絡

季節共同保育所經營主體を農家小組合におくといふ意味は村内一部の熱心な人々の努力のみで作られるのではなく、先づ利用する人々も十分に理解して村内諸力總動員で開設することを意味するものである。各農家は經營費の一部を負擔するのは勿論我が子の生活場所、家の一部と考へて萬端の心遣ひをしなければならぬ。又生活に餘裕ある人々は人的、物的奉仕を、村の醫師は保育上の救療、保健的仕事に、小學校は保育上の援助に又備品、保育材料の貸與に、産業組合又は商店は給食材料間食の廉價買入に協力をしなければならぬのである。さうした意味で

- 一、村内關係團體によつて農漁業期對策協議會を結成して共同作業、季節共同保育所、共同炊事等の企劃、實施のために充分對策を協議すること。
- 二、特に小學校、寺院、醫師、學校保健婦等には直接共同保育所に於ける保育上充分の協力をなすやう豫め充分な連絡をとること。
- 三、保母選定に際して愛婦、女子青年團、青年學校、小學校等の協力を乞ふこと。
- 四、小學校及小學校児童には季節共同保育所に於ける玩具、室内裝飾等保育材料作成のために圖畫、手工等に於ける制作を依頼すること。

開所式のやり方

何事も始めが大切である。季節保育所にとつても最初の一日は極めて大切である。親には託兒所を信用出来る親しい場所と思はせ、子供達にはたのしい面白い所だと思ひ込ませるには、この最初の日をどう工夫したらよいらう。土地の事情、村の風習、村人の氣持子供の氣分などよく呑みこんだ上で、その場その場に應じた上手なやり方を考へ出さねばならぬ。此處には、開所式を農繁期に入る二、三日前に行つて、子供も大人も年寄りも招んで子供會を開いた一例を示さう。

子供會を兼ねた開所式

おもしろおかしい文章で開所式子供會案内のビラを書き、各戸に配つて置くと、刺激の少い農村のことであるから、大人も子供も暇を作つてはわんさと押しかけて来るにちがひない。

この日は場内も旗などで飾り、子供達が一と目見て氣に入りさうな雰圍氣をこしらへて置く。入口では保母が笑顔で迎へてやる。受付に名簿を用意して置いて、保育所へ来る子には、花の飾りなどつけた名札兼徽章をつけてやる。

順 序

第一部 開 所 式

一、國 旗 掲 揚

一、皇居遙拜、君が代

一、あいさつ

一、保母のお話

一、子供の出席調べ

第二部 子 供 會

一、小學生の合唱

一、保母の童話

一、民謡(村の人に唄ってもらふ)

一、紙 芝 居

一、小學生と保育所の子(有志)と一緒に合唱、或ひは簡単な遊戯

一、一同 合唱

一、終りのあいさつ、解散。

始めのあいさつは村長さんか農家組合長さん、お寺でやる場合なら坊さん、といふ風に指導者の側から一人と、子供達の親の側から一人出てもらふ。

保母の話は、準備會なりビラなりの内容をもう一度具體的に説明して念を押すこと。そして、子供達にむかつて特に、明日からの楽しい生活を話してきかせ、希望と元氣を持たせたい。

あいさつも話も、むづかしい漢語など立派らしく並べ立てても何もならない。誰にでもわかる様に親しみ易い言葉で、簡単に話したい。子供の出席は、受付の出席簿でとつてはあるが、子供に、保育所の子になつたといふ自覺を持たせる爲一人づつ名を呼んでやらう。返事の出来た子は、皆で手を叩いてほめてやる。

開所式は出来るだけ短い時間に片づけてしまふ。次の子供會との間に少し暇があつたら、所内を案内し、下駄箱、雨具掛け、お辨當棚、便所、水呑場、手洗場、紙屑籠などの場所を教へて置く。ささやかながらお菓子をくばり、いよく楽しい子供會が始まる。

此の子供會には、村の人や小學生等に是非出演して貰ふ様にする。かうして協力してもらふことこそ、保育所を理解してもらふ一番よい方法なのである。

明日から保育所へ来る子供のうち元氣な子を出して、小學生と一緒に歌をうたはせるか、簡単な遊戯を保母が中心になつてするなど試みるとよい。最後に皆で一緒にうたふ歌は、「愛國行進曲」でも何でも、一番皆のよく知つてゐるやさしい歌がよゝ。

最後にもう一度子供の名を呼んで、明日から元氣で来ることを更めて約束する。歸りの下駄箱が混雑しない様に、一度に解散せず、十人位づつ歸す様な方法も工夫さるべきだらう。明日から保育所に来る子には、一人々々さよならをし、勵ましてやる。

閉所後の始末

農繁季節も峠を越えていくらか閉も出来る頃になれば、保育所も閉所しなければならぬのだが、文化施設としては殆どない農村に折角芽生えた幼児の遊び場が閉されるのは幼児にとつて何よりも淋しいことである。

せめて閉所の時には幼児、學童、農家の人たちも含めて役場、學校其他關係團體の人々も招いて閉所の集りを持ちたい。又部落の人々を中心に保姆の慰勞をかねた報告會を開いて來るべき農繁期への希望實現を約束し合ふことも是非したいものである。その他村内關係團體、後援者への報告、府縣社會課への報告並補助申請、保育所研究座談會、閉所後の母の會や幼児の集り等閉所後の始末も次の開設の準備として重要な役目がある。

閉所式

閉所式には大體二つの目的がある、一は幼児たちの保育所生活がなくなるためのさみしさに打ちかつて來るべき農繁季節の開設への希望を抱かせること、農家の母たちに保育所の生活を紹介して保育所をより深く知らせ、子供を育てることの大切さをひし／＼と感得させることである。そのために保姆が中心となつて母たちに幼児の保育所生活を知らせることをプログラムの中心にする。こんな意味から閉所式の持ち方についてあげれば

一、時刻 最後の日の正午

二、内容

1、農家組合長の閉所の挨拶

2、保姆の保育所生活の紹介

3、幼児の話、唱歌、ゆうぎ等の實演

4、母親の所感

5、母の會の相談

6、來會者の挨拶

7、記念寫眞を撮る

三、話の途中で幼児の給食を擴大して來會者一同會食する。

報告

閉所したら部落總出で直ちに設備の借りたものは返し、保管すべきものはよく始末して、ブランコや滑り臺等は残しておいて子供たちの遊び場に開放しておく。幼児たちは閉所後も集つて遊んでゐるであらうが時日の経つにつれて保育所生活の追憶も漸次うすらぐであらう。

又農家組合では保姆と相談して會計並事業の報告書を作成すること。さうした上で

一、部落月例會に於て會計並事業報告をして、農家の人々に充分に理解してもらふこと、其後府縣、市町村及び各團體より補助金、助成金が來たら決算報告書を作成して部落各農家に示すこと。

二、右會計並事業報告及決算報告書は役場を始め村内關係各團體後援者に禮狀と共に届けて今後より一層の協力を要請すること。

三、府縣社會課へ事業成績を報告して補助金の申請をすること。これは開設申請と同様に各府縣に所定の書式があるので、町村役場できいて所定期日までに必ず申請すること。

季節共同保育所研究座談會

今度季節共同保育所に保姆として働いた人たちや経営にあたった農家小組合幹部、町村當局、關係諸團體等が會同して村内に開かれた保育所經營並保育の經驗を語り合ひ將來の參考にすると共に、次回開設期には未開設部落にも設けるやうに助力したり、保育所の發展として共同炊事の計畫等にまで村内各勢力を協同的にもり上げるようにしたいものである。

部落母の會（母親學校）の開設

前に述べたように季節共同保育所では農婦を助けて子供の世話をしたのであるが、農家の生活改善は育児にしても食事にしても先づ農婦の教養を高めてゆくことが必要になる。こうした意味から豫め農家組合の人々が小學校、町村醫等に協力を依頼しておいて、閉所式をきつかけとして農閑期を利用して月一回部落の農婦懇談會を開いて慰安、娛樂をかねて母の會を開くのである。この場合醫師や小學校の先生に育児、營養、教育等のことを極めてくだけてわかり易く話してもらつたり、部落の女子青年がこのような問題を扱つた面白い小説を讀んでやつたりして毎日の家庭の仕事を少しでも合理的にいとみ得るやうに母親たちを啓蒙向上させるのである。正月や三月の節句などには米を持ち寄つて小學校の女教師から營養食の實習してもらつて一同で會食するのも面白い。

こうして季節保育所が出来たことをきつかけとして母親教育の仕事へ一歩でもふみだせたら先づ成功したと云へるのである。

部落子供會へ

季節保育所閉所後も保姆になつた人々はひまをみては保育所の場所へきて唱歌をうたつたり、お話をしてやれたらと思ふ。

この際小學校の先生やお寺の坊さんなどに協力してもらつて部落の幼児、學童を一體として部落子供會が作れたら幸である。閉所後も保育所生活の影響を高めてこの様な子供會をやりながら來るべき開所まで幼児の心をつなぎとめておきた

い。これらの幼児たちが中心となつて來るべき開所には保育内容も亦より一層高められ得ると思ふ。

學童の問題

部落に保育所が開設されると幼児の兄や姉たち小學校低學年兒童も亦保育所の庭に自然と集るものである。數少ないブランコや滑り臺等遊具は學童に占領されてしまつて幼児はうらめしさうに見てゐる。が學童としてもブランコに乗つて見たいのである。さうしていつも高學年兒童の壓力の下で小さくなつてゐる彼等とて幼児たちの前で威張つて見たいのであらう。この場合學校の子は保育所で遊んではいけませんと追拂つた所で遊び場のない彼等である。心ある保姆は巧みに學童の心を捉へて兄さん姉さんぶりよろしく幼児の世話に協力させるやうに仕向けるであらう。保育室の掃除、水汲、お使ひなど彼等も亦大人が驚くばかりまめに保育所の仕事に協力するのである。ごほうびに幼児たちと共に間食でも與へたらどんなに喜ぶことであらう。

更に野外に散歩でもする時には彼等も亦保姆のよい助手として健氣な働きを示すであらう。

このやうに學童も亦保育勞働力の一部として積極的に部落の仕事に協力させる態度が望ましい。かくて學童が季節保育所に好意を持つことは家庭の人々の理解を促がすためにも好結果をもたらすであらう。

保育所の記録

季節共同保育所を開設した場合、實施經過を細かに記録することは極めて大切なことで次回開設の參考資料となることは勿論のこと報告書を作成するにしても詳細な記録がないと困るものである。特に是非記録しておく主なもののは次の通りである。

一、季節保育所日誌（保姆が開期中記録）

月日、曜日、天候

児童数 出缺數(性別)
 給食 献立
 間食 品目
 保育 狀況
 來所者、協力者氏名
 保母の感想其他

等の欄を作つて保母が記入し易いやうに準備しておく。

二、季節保育所關係資料綴

部落月例会記事をはじめ、領收書、報告書寫、ピラ等に至るまで保育所に關係ある文書を綴つておいて參考資料にする。

三、金錢出納簿

収入と支出に分けて

収入は補助金、寄附金等に分ち

支出は設備、人件、給食、間食、消費費等に分けて細かに記入しておく。

四、出席簿

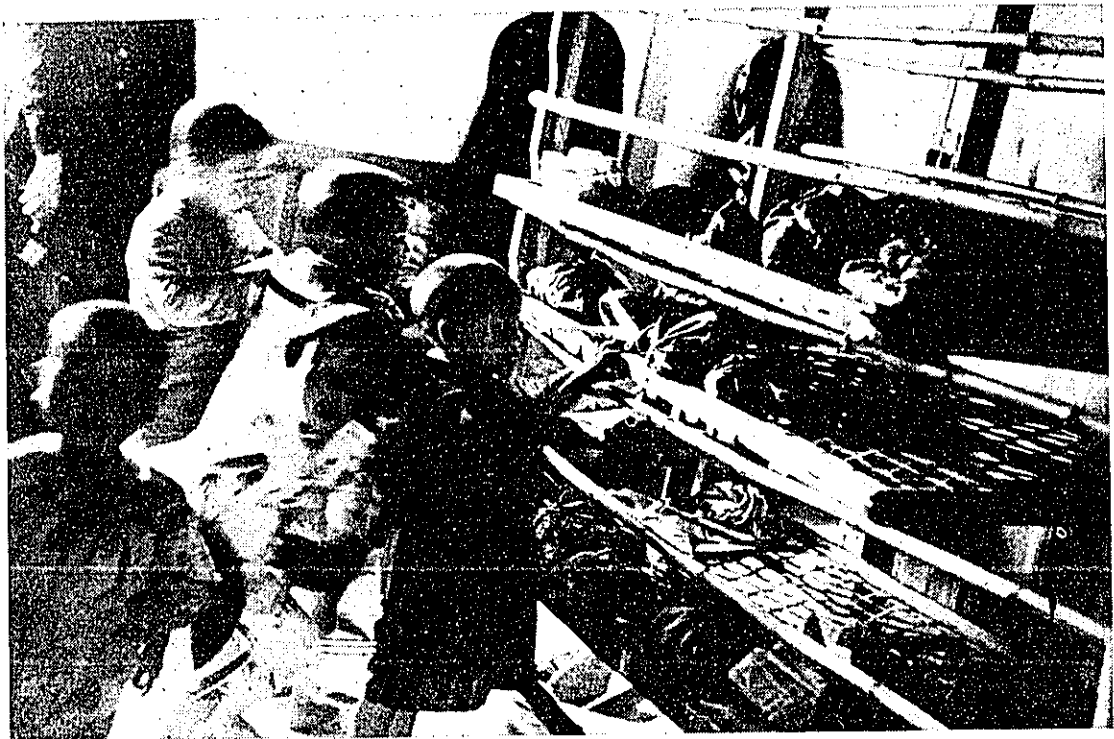
五、児童名簿

前記受託児童の項に述べた項目をしらべて

保育の參考に資するもの

これらの記録用紙は小學校の用紙をもらつて使用してもよいが、役場の人や先生に頼んで謄寫して作つてもらへたらよ

50



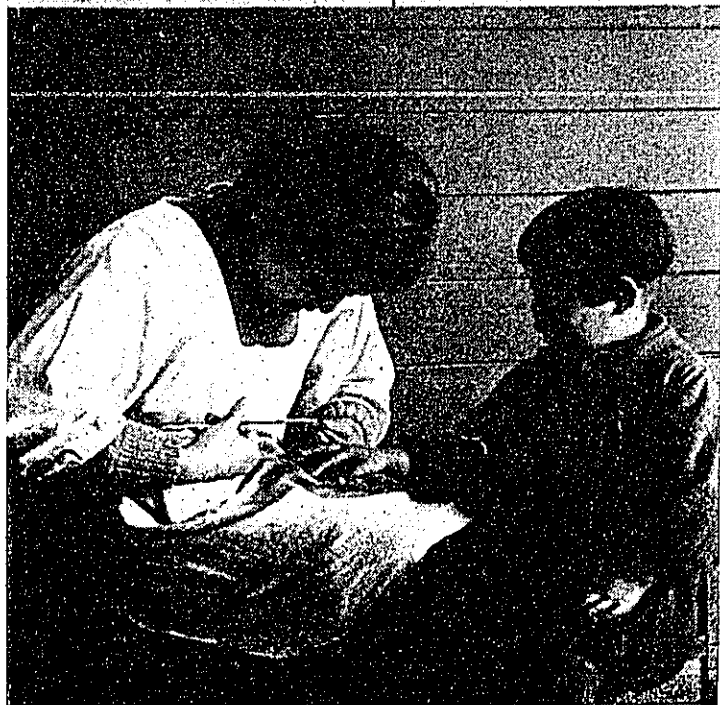
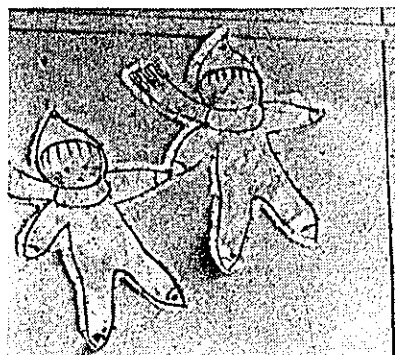
お辨當のいめの手で養育棚へ整理する



お辨當の子の中も降り



座布団かけてひるね



お話しながら爪切り

保育篇

保育所の一日

一日の保育所生活を、たのしく充實しておくために、何よりも大切なのは、計畫と準備とである。夕方子供が歸つた後、一日の生活を反省すると同時に必ず次の日のくらし方の計畫を立て、その爲の準備を整へて置くことを忘れてはならない。

行きあたりばつたりの保育ほど、保姆を無駄に疲れさせ、子供をそこなふものはない。

前日にこの様な計畫と準備が整へられてゐるものとして、次に、朝から夕方迄一日のくらし方の一例を参考の爲書いてみよう。

子供が来るまでの仕事

先づ窓をあけ放ち、すがくしい空気を入れる。棚の上、机の上などざつと拭いて埃を拭き。そして場内を一巡して、

今日一日安全に楽しく遊べる用意が出来てゐるかどうかを調べよう。

香水、手洗水の用意はいいか。便所は汚れてゐないか。すべり臺がグラ／＼してゐないか。ブランコの綱の具合はいいか。砂場の砂の濡り具合はどうであらう。空箱の中には徽章が、もう一つの空箱の中には鼻紙がキチンとはいつてゐるだらうか。今日見せる豫定の紙芝居は直ぐ出せる様になつてゐるだらうか。救急箱の中には直ぐ使へる様に薬や繃帯が揃つてゐるだらうか。

さあこれで何時子供がやつて来てもまごつく心配はないと決つたら、保母は保育所の入口に出て子供を待つ。

子供のうけとり方

保母の準備が終るか終らないうちに、保育所はたちまち子供等の賑やかな叫びで満されることだらう。近所同士さそひ合つて来る子供達、母の背中におぶさつて来る子供、おばあさんに手をひかれて、又兄や姉と一緒に、續々とやつて来る子供達の一人々々に「お早やう」と元氣によびかけてやる。

健康しらすべ

子供のからだに昨夜から異常がなかつたかどうかを家の人にたづねる。昨夜寝てから大分咳をしたとか、今朝御飯を食べなかつたとか、親達はいろ／＼に報告するであらう。かうして子供のからだに細かい注意を拂ふ態度が次第に親達にも養はれて行くのである。

同時に保母は自ら子供に就て、元氣、顔色、體温等を調べ、目の病氣、皮膚病などはないかと確める。原則として病氣

の子は家に返へす方がよいのであるが、實際には實行の難しい場合もあらう。その様な時は、一日中保母はその子の爲特別に氣をつけてやらねばならない。病氣の子に限らずすべての子供に就て云へることだが、晝間の親の働き場所は控へておいた方がよい。子供に萬一の急變などあつた場合に直ぐ駆け付けることが出来る様に。

服装しらすべ

お辨當などの持物をキチンとその場所に置いたら今度は子供の服装をしらすべ。綿入れをいくつも重ね、動くのにも不自由な上に汗ばんでゐる、といふ様なことはないか、ズロースのゴムが弛んですり落ちて来る様なことはないか、下駄の鼻緒が今にもちぎれさうではないか等——。そして、どの子も思ふ存分活動出来るやうに服装を調べてやる。

髪・顔・手などを清潔に

起きたばかりで髪はぼう／＼、顔や手は眞黒、といふ子供達を、せめて保育所に居る間なりと清潔にしてやりたい。顔洗ひ、手洗ひ、髪の梳りなど、大きい子は一人で出来るし、小さい子には保母がしてやる。保育所へ来たら直ぐに一人で鼻をかむくせもつけたいものだ。

自由あそび

かうして一日の生活が始まる。ブランコに、滑り臺に集る子供等、砂場でおだんごをまるめ始める子供等、保母の両手にぶら下る子供等、保母はこれ等の子供等の仲間となつて遊び興じながらも、いつも全體に目をくばり細い心づかひをすることを忘れてはならない。中には起きぬけにやつて来てまだ朝飯をすましてゐない子がある。かういふ子は大抵お握りを二食分位持つて来てゐるから半分食べさせてやる。

その他、いじめられてしく／＼泣きながら家へ歸つて行かうとする子、帯がとけてす／＼引きすつてゐる子、おしつこが出たくてもぞ／＼してゐる子、保母はいちはやくかういふ子供達を見つけて、それ／＼適當に世話してやる。

混雑を防ぐ爲に、保姆が各々役目を分擔する方法をとるとよい。一人は子供の遊び仲間に入らずいつも全體に目をくばつてゐるとすれば、他の保姆は子供を楽しく遊ばせる役目を引き受ける、と云ふ様に。

洗眼・塗薬など

自由あそびの間に時間を設けて、目の悪い子やおできの子を集め、簡単な治療をしてやる。これは、出来るなら醫師や保健婦の指圖を受けてやることである。

お集り

八時半頃からそろ／＼玩具などを片づけ始め、「お集り」の用意をする。五、六人づつ順々に便所へやり、顔や手足などもう一度洗つてきれいにする。服装ももう一度しらべて、ひどく汗ばんでゐる子などは、一枚脱がせると一緒に、からだを拭いてやる。

用意が出来ると愈々「お集り」である。笛か、オルガンを鳴らして合圖をすると一緒に、子供達をまるくならべる。慣れない子をまるくならべるのはなか／＼困難なものだが、次の様な方法をつかひながら、段々早く上手にならべる様に練習するとよい。

- 1、「まあるくなれ、まあるくなれ、卵になあれ」とうたひながら手をつないでまるを作る。
- 2、白墨でまるを床に描き、「白い線を踏まないで坐れる子は誰だらう。」などと云ひながら、白墨の線に沿つてまるくならべる。戸外でやる時は、中心に棒を一本立て、それに繩を結びつけ、繩の片端にも棒を結へつけてぐる／＼と廻してまるを描くとよい。
- 3、縦にならび、オルガンのマーチにあはせて行進しながらまるくなる。

ならべる時、小さい子はなるだけ大きい子の間に、又暴れる子はおとなしい子の間に入れる。やつとまあるくならんだと思ふと、今度は子供達の注意を一つにまとめるのが一苦勞である。それには、

- 1、「むすんで、ひらいて」をする。
 - 2、オルガンに合わせてリズム的に手足を動かす。
 - 3、皆で手をうちながら數をかぞへる。
- などの方法がある。かうして子供達の顔が保姆にむけられた時、保姆はまづ第一に、子供の手足のきれいになつたことをほめてやりたい。鼻紙と屑籠を當番の子に持つて廻らせると、鼻の出てゐる子は自分で氣がついて、鼻紙をとり、鼻をかむ。かんだ鼻紙は必ず屑籠へ。かうして身も心もさつぱりとした子供達は、保姆の手に掲げられる國旗が、はためきつゝ空高く上つて行くのをみまもり、朝の挨拶の唄をうたふのである。

出席をとり、一人々々の胸に徽章をつけてやる。

次は、ラヂオ體操をするのもよい。お話をきかせるのもよい。又唱歌や遊戲を教へたり、皆でたのしく遊べる集團遊戲をするのもよい。たゞ、「お集り」の時間は餘り長くしないこと。開所當時はせい／＼十分位にして、段々延ばして行き、慣れて來た頃は三十分——四十分位が適當であらう。

おやつ

おやつの前にも、おしつこ、手洗ひ、うがひ等忘れない様に。まあるくならび、お皿がなければ新聞紙の代用品で結構である。皆が配つてもらふのを待つてゐて、一緒に元氣に「いただきます。」をしてから食べる習慣をつけよう。物を食べてゐる時は子供の一番おとなしい時、心が満ちたりてゐる時。かういふ時は、大人の言葉も素直に子供の心に沁み込んで行く。食事の時を利用してよい習慣を養ふことが割合にたやすく出来るのはこの爲である。

おやつを食べながら、靜かにお話をきかせてやるのもよいと思ふ。「泣かないで託兒所へ來た子の話。」「自分で氣づいて

鼻をかむよい子の話。」等々。

自由あそび

餘り同じあそびでは飽きるから、いろ／＼と子供の興味を捉へて工夫しなければならぬ。お天氣のよい日なら、近くの野原へ遊びに行き、笹舟を川へ流して遊んでもよいし、畦道へ蝗をとりに出掛けてもよい。(「たのしい遊び」の章参照)

お辨當

遊び疲れておなかも空いた。たのしい／＼お辨當の時間である。おしつこ、手洗ひ、鼻かみなど忘れずに、皆揃つて「いただきます。」を云つたら、保母は、一人々々の子供が無事にお辨當を食べてゐるかに氣をつけよう。風呂敷包みの結び目がとけないで泣きさうになつてゐる子、箸を忘れて来てしよんぼりしてゐる子などに、やさしく氣を配つてやる。始めの中は、皆と一緒に食べるのが恥しくて、俯向いてもじ／＼してゐる様な子が、二人や三人は必ずあるものである。さういふ子は、一時皆から離れた場所に席を置いて、安心した氣持で食べさせてやる。食べてゐる間も一人々々の子供に注意しよくかんで食べてゐる子や、おしやべりしないで食べてゐる子などはほめてやる。食欲のすままない子は、そのわけをたしかめる。こんな所から子供の病氣を發見することがよくあるのである。早く食べ終へた子から一隅に集めて、靜かに繪本などみせて暫く休息させる。

空になつたお辨當の包みは、めいめいのお辨當置場に子供自ら持つて行つてならべておく様に、段々に訓練したい。一人々々の子のお辨當の中味に就ても、保母はよく氣をつけてゐたい。おなかの悪い子が不消化な煮豆など持つて来てはならないか。又、いつも大根のしつぽばかり入れて来る様な子が居たら、家が貧しいからか、人手の足りないせいかわ、或ひは親の無知の爲か檢べてみる必要がある。子供のお辨當しらべ一つの事から、保母は數々の問題を掴み出すことが出来るのである。

つやおるべ食で内室



ねい儀行お





お天よ日は青空の下で



おやつとお辨當のしいた

晝寝

一人の保母が子供等を集めて繪本など見せてゐる間に、他の保母は素早く御飯粒を掃き集め、飯臺を片づけ、晝寝の用意をする。日光の直射せぬ様な静かな場所をえらび、ござ、毛布等をしく。目のわるい子、皮膚病の子等は皆から少し離してねかせる必要があること云ふまでもない。

着物をゆるめ、鼻をかみ「おやすみなさい。」と云つて横になつたら、静かなレコードをきかせてやらう。又保母が子守唄をうたつてやらう。朝は早く起され、慣れない集團の生活に疲れてゐる子供達なのだから、よく眠らせてやりたいものだ。どうしても眠らない子は暫く横になつてゐるだけでもよい休息になる。おなかの悪い子、風邪引きの子などには毛布を一枚多くかけてやりなどして冷えない様に氣をつけてやらねばならない。蠅がうるさい時は團扇でそつと煽いでやる。

こんなに細心の注意を拂つてもねつかない子はそつと起して、眠つてゐる子の邪魔にならぬ様、別室か、又は戸外などに連れ出して遊ばせる。

晝寝は子供のからだにとつて必要ではあるが、あまり寝すぎると、夜いつ迄も起きてゐて家の仕事の邪魔になることがあるから、一——二時間位で皆起した方がよい。(特別眠りの足りない子は別である。)小さい子は殊に、目をさましたら直ぐおしつこにやること。一寸うっかりしてゐるとその儘毛布の上へやられてしまふ懼れがある。

晝寝の片づけは、なるたけ子供にやらせよう。七つ位の子なら、毛布を疊んできまつた場所へ置くことぐらい少し練習すればたやすく出来るのだから。

午後のおそび

午後のおやつがすんでからの二時間から三時間の過し方が一番むづかしいと云つていゝかも知れない。長い一日の保育所生活に飽きて来る。お辨當もおやつもすんでもう楽しみはなくなつた。そこで子供は、先生の目をぬすんではそつとお

辨當の包みを持出して家へ歸つてしまふことになるのである。喧嘩して泣き出す子も夕方は多くなつて来る。保母も又疲れて来る。けれども又、氣持の持ちようによつては、工夫のしようによつては、家へ歸るのはいやだ、と子供に云はせる程たのしく遊ぶことだつて出来るのである。「たのしい遊び」の章をよく讀んで工夫してほしい。

歸りの支度

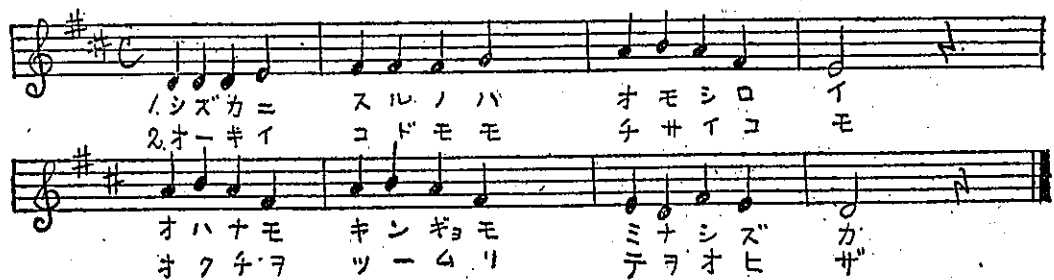
歸る時間が近づいたら、一日の汗と埃にまみれた顔や手足をきれいに洗はう。そしてまるくならんで、積木倒し(註)をしたり「静かにするのは」を唄つたりして心を落ち着ける。子供等が静かになつた時、保母は、今日一日を振り返らせる様なお話をしてきかせる。「今日は時ちやんは、小さい子の面倒をよく見て上げたね」とか、「今日のおべんとうの時は、皆よく噛んで食べたのね。」といふ風に。そして、「明日又面白くあそびませうね。元氣でいらつしやいね。」と約束する。

それから子供達の名前を呼び、一人づつ徽章を返してもらひ、空箱に入れて整理して置く。元氣にさよならの唄をうたひ、近所の子は子供同士連れ立つて歸つて行く。忘れ物はないか、下駄の緒は切れてゐないか等、一人々々の子供に氣をつけてやる。

野良歸りの父ちやん母ちやんを見つけて喜び叫ぶ子供達。「ごくらうさままでごせえました。」と頭を下げるおばあさんに、保育所での出来事をせつかに報告する子供もゐる。保育所は又ひとしきり賑はふのである。

註 積木倒しに就ては参考資料中の「集團あそび」を参照

静かに



子供のわたし方

勞働に忙しい親達にとつて、保母と話の出来るのは殆んど朝夕の送り迎への時に限られてゐることを思へば、この僅かの時間の保母の仕事が如何に大きいものであるかがわかる。開所當時、まだお互ひに親みの持てない頃は、何でも打明けて話し合ふといふ具合にはなかく行かないであらう。けれども保母が心から子供のことを心配し、親切に面倒を見てやることによつて、必ず親達の心を捉へることが出来る。

子供を親にわたす時、保母は、母親の一日の疲れをねぎらふと共に、「今朝みつちやんはあんなに泣いたけど、ブランコにのせたらすつかり元氣になつて、一日中いゝ子で遊んだのよ。」とか、「とても上手にハトポツポの遊戯が出来たの。」とか又、「少し便がゆるい様だから、うちでも氣をつけて下さいね。」などと子供の様子を話しかせる。少し慣れて来ると、こちらから黙つてゐても、きつと親の側からいろんな相談を持つて来る様になるに違ひない。子供の事に限らず、病氣のこと、スフの洗濯法などから家の中のごたごたの愚痴まで。保母はどんなつまらないことでも親達の眞剣な訴へを熱心に聞き、一緒になつてその解決法を考へよう。わからないことは勉強してでも親達の役に立たうとする位の意氣込みが欲しい。それでこそ始めて、保育所の仕事に對する村人の支持と協力をかち得るのであり、逆に又保育所の仕事が村の生活をよくする爲に本當に役立つことが出来るのである。

子供が歸つた後の仕事

急にひつそりとなつた保育所に残つた保母達は、今日一日を無事に過した安心と同時に、張りつめた氣持が弛んで急に疲れを感じるだらう。もうひと息と、掃除をすませ、(便所の掃除は特に氣をつける)泥だらけになつた手拭ひを洗ひ、明日の鼻紙を用意し、おやつ心の心配をする。

そして机に向つて今日の日記をつけたり、明日一日のくらし方について相談をする。きちんと戸締りをして歸る途々、

今日休んだ子や、からだの具合の悪かった子の家などに一寸寄つて様子を尋ねてみる。

以上の様な保育所の日を、大體時間に割當ててみるならば次の様になる。

午前六時	七時半	登所・健康しらべ・服装しらべ・顔手足の清潔・自由あそび
七時半	八時	治療
八時	九時	自由あそび
九時	九時半	お集り
九時半	十時	おやつ用意
十時	十時半	おやつ
十時半	十一時半	自由あそび
十一時半	十二時	おひる用意
十二時	十二時半	おひる
十二時半	一時	おひる片づけ
午後一時	三時	晝寝
三時	三時半	おやつ
三時半	五時半	自由あそび
五時半	六時	歸りのお集り。さよなら。

(此の間に適宜に集めてお話、遊戯、手技などするとよい。)

以上は保母も子供も保育所の生活に慣れて来た頃の一例であつて、始めから一足飛びにこの型通りに行くと思つたら間

違ひであるし、又慣れた頃だからと云つてこの時間割通りにキチンとやらねばならぬなどと窮屈に考へてはならない。生きた子供を取扱ふ保育所の生活は、実際にはもつと矛盾に満ちたものであり、又その中から生き生きした問題をつかみ出し、いろいろ工夫して行くところこそ、保母ならではの味はひ得ぬおもしろさのあることを忘れてはならない。

丈夫なからだ

安全に子供のからだを護るといふことは、季節保育所の先づ第一の使命であらう。

「保育所から病氣がうつゝて来た。」とか、「保育所で晝寝をして風邪を引かせた。」とか、「保育所の庭でブランコから落ちて怪我をした。」とかいふ聲をきく様なら、村人たちは、保育所などあつても何の役にも立たない、といふ結論をつけるのが當然である。

一日の保育を終へてほつとした時先づ保母が感ずるのは、「今日も一人の怪我をする子がなくてまあよかつた。」といふことである。

しかし、次の時代をしようとして立つ子供達を育てる者として、私達はもう一歩つき進めて考へてみたい。たと毎日が無事に過すといふだけでなく、もつと大きな見通しを持つて、子供のからだを、しんから丈夫にし、やがて健康な元氣のいゝ働き者となる素地を作つてやりたいのである。それには、保育所にゐる間保母が氣をつけてやるだけでは足りないのであつて、母親の指導、ひいては村全體に對する健康教育が問題にのぼせられなければならなくなつて来る。更に深く考へれば問題は無限に發展して行く。動物性蛋白質は育ち盛りの子供には缺くべからざる榮養分であると口を酸つぱくして説かれても、貧しい農家では魚も減多に口にするには出来ない。生れて来る赤ん坊の健康の爲にも母親は産前産後に充分の休

養をとらねばならないとわかつたとしても、男の手が足りなければ女はお産の前日迄も激しく働かねばならぬ。かういふ事實にいやでも目を蔽ひ得ない立場に置かれる保育所の保母は、子供のからだの健康といふ一つのことすら、農山漁村の生活問題、経済問題との深い關聯なしには考へられないことを知り、熱心な保母はそれ等についても理解を深めようと努力せずにはゐないであらう。それでは、結局根本的な問題が解決されなければ、村人に對する健康教育は何の役にも立たないであらうか。否、反對に、自分達の生活が今迄如何に不衛生なものであつたかを改めて見直し、その改善の必要を身に沁みて感じてもらう爲をしてその解決法を自ら見出してもらふ爲にこそ、村人への健康教育は役立つとも云へるのである。近頃政府でもこの點に氣づいてか、まだその數は少ないが各村に保健所が出来、保健婦が巡回して村の健康指導に努めてゐる。保育所保母も又子供を通しての親しい結びつきから、保健婦の仕事を助けねばならない。この意味からも、常設保育所の設置は是非共必要であらう。けれども今は目前にある季節保育所の問題に歸らう。短い間に理想を實現することはむづかしい。だが私共はいつも此の理想を忘れず頭に置きながら、日々子供等のからだをまもり育てて行き度いものである。子供のからだを丈夫に伸びて行く爲には、どうしても次の二つが必要である。

一つは、外から子供のからだをまもり育て、もう一つは子供が自分で自分のからだをまもる事、つまり衛生的な習慣を身につけることである。

後者に就ては次章の「よい習慣」の所で纏めて書くこととして、此處では前者について書かう。

1、身體検査

開所前に身體検査をし、傳染病の子や、保育所の生活に耐えぬ様な弱い子を發見すること。又、入所を拒む程ではないがからだの弱い子や變つた體質の子などをよく知つてをき、開所中は特に氣をつけて面倒を見てやる。

病氣の子が發見された時には、醫者、保健婦、役場などと相談して、病氣を治す工夫を講じる位の親切さが欲しい。又

次の様な票を配り、子供のからだに對し親の關心をよびおこしたい。
身體検査を型通りのものに終らせるか、又お母さん教育の有効な方法として役立てるか、それは保母のやり方次第である。

○子供のからだの状態

検査日	姓名	生年月日	検査醫
體重	身長	胸開	
眼	耳		
扁桃腺	齒		
胸部	腹部		
皮膚	淋巴腺		
榮養	體格		
○今迄にやつた病氣			
○特に氣をつけねばならぬこと			

身體検査の時は次の様な點に氣をつける。

- (イ) 子供が検査を怖がらぬ様に氣をつける。検査をやる前に、お医者さんが紙芝居やお話をしたり、遊んだりして、子供と親んでくれるとやりよい。
- (ロ) 順序をよくきめてまごつかぬ様に。
- (ハ) 着物を間違へぬ様にひと所に纏めておくこと。置場所をきめておくこと。
- (ニ) 手が足りないは大混雑を來すから、小學校の先生、お母さんの中の有志、高等科の女生徒等に豫め頼んでおいて手傳つてもらふこと。
- (ホ) 結果はよくとも悪くとも必ず親に知らせる。子供のからだのことについて一緒に考へる。
- (ト) 検査の後、お医者さんをかこんで、子供のからだを丈夫にする話をききたいものである。
- 2、毎日の健康しらべ

朝子供を受取る時、昨夜から子供のからだに異常はなかつたかを家の人に聞くと同時に保母自らも次の點に氣をつける。

- 元氣 何となくぐつたりして元氣ない様子は見えぬか。
- 顔色 いつも血色のよい子が今日に限つて青い顔をしてゐる様なことはないか。
- 目の色 どんんとして光ない目をしては居ないか。又、しよぼく／＼と眩しさうであつたり、充血したりしてゐる場合は一應麻疹を疑つてみる。
- 體溫 額に手を當ててみて、熱っぽく感ぜられたら、體溫計で計つてみる。
- 脇の下で計る時は、體溫計の水銀の部分、腋窩に密着する様に氣をつけて、斜下からさし入れる様にして扱む。
- 體溫が三七度五分以上あつたら病氣とみななければならぬから、保健婦なり醫者なりに相談する。
- 傳染病の有無 百日咳、麻疹、とびひ、はやりめ、其他の傳染病が表れてはゐないか。

百日咳と麻疹に就ては特に氣をつける。百日咳は、最も傳染性の激しい初期の頃には特有の咳も表れず、普通の風邪と見分け難い咳をするから、よく咳をする子が居たら、その子の家の近所の百日咳の有無を檢べ、子供の様子にも氣をつけ、出来るなら醫師の診斷を乞ふ。

目が充血し、しよぼく／＼と眩しさうな子には、口をあけさせてみる。丁度奥齒の向ひ側の頬の内側の粘膜に、白い斑が出来て居れば、(コプリック氏斑と云ふ)麻疹とみてよい。

百日咳と麻疹の子だけは嚴重に休ませねばならない。併し、一寸の風邪や、眼病、おできの子などを皆歸してしまふ事は、實際問題としては實行の難しいことである。やむを得ず軽い病氣の子を預る場合には、保健婦、醫師等と相談して、洗眼、藥の塗布等してやりたい。又、病氣の子は、晝寢の時離して寝かすとか、手拭ひを別にするとか、他の子に病氣が移らぬ様出来るだけの注意を拂はねばならない。

3、子供を遊ばせながらの心づかひ

子供が夢中で遊んでゐる間も、保母は、子供のからだについて次の様な心づかひを忘れてはならない。

日光 なるたけ日なたで遊ぶ様に。日光は細菌を殺し、子供の成長を助ける。お天氣の日に子供を室内に閉じ込めて唱歌や手技を詰め込むなどは愚の骨頂である。

空氣 室内で遊ぶ時は、なるたけ窓をあけて置く。風が強かつたりして閉めておかねばならぬ時も、一時間に二度位はあけて空氣を入れ換へる。駆け足や行進をする時も必ず窓をあける。外で遊ぶ時、あまり埃っぽい様な時は水をまいて、いつも子供の吸ふ空氣をきれいにしておく。

休養 子供は遊びに夢中になると、自分自身の疲れにも氣づかない。餘り騒いで遊んだ後には靜かにお話をきかせてやる等、常に子供に適當な休みを與へてやる様氣をつけなければならぬ。